



高砂香料工業株式会社

2014年3月期 決算説明会

2014年5月19日

# 本日の内容



I. 2020年 高砂100周年に向けて  
(今後の中長期計画について)

代表取締役社長  
榎村 聡

II. 2014年3月期 通期業績報告

III. 2015年3月期 通期業績予想

IV. 安定供給体制の確立

取締役常務執行役員企画開発本部長  
松本 裕幸

VI. 海外戦略について

取締役常務執行役員管理本部長  
笠松 弘典



# I . 2020年高砂100周年に向けて (今後の中長期計画について)



# 高砂100周年へのビジョン

## 中期経営計画

2020年  
100周年

2013年度  
決算説明会

2020年に向けて

GP-1 2009～2011年度	GP-2 2012～2014年度	Next 3 years plan 2015～2017年度 Post GP-2	Final 3 years plan 2018～2020年度
---------------------	---------------------	---	-----------------------------------

## 《企業理念》

技術立脚の精神に則り社会に貢献する

### GP-2 グループ基本戦略

- ① グローバルでの全体最適の追求
- ② 差別化によるブランド確立
- ③ 技術革新による優位性の確立
- ④ サステナブル経営の追求  
(企業としての社会性向上)

平塚火災事故  
発生による影響

# 2020年に向けて（今後の中長期計画について）

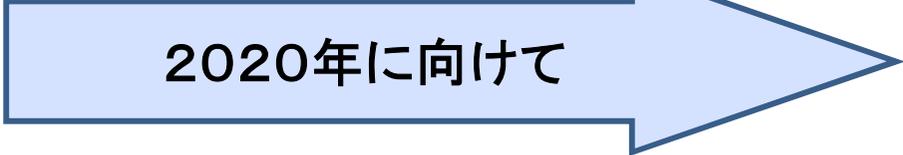
## GP-2財務目標

[単位: 億円]	2014/3 実績	2015/3 計画	GP-2 目標
売上高	131,036	129,000	130,000
営業利益	5,404	3,000	9,200
経常利益	5,940	3,000	
当期純利益	3,025	3,500	5,900

Next 3 years plan

Post GP-2

2015～2017年度



2020年に向けて

## 今後の重要課題

- 研究開発力の強化
- グローバル競争力
- 安全安心の確立
- 収益力の強化



## Ⅱ. 2014年3月期 通期業績報告

# 2014年3月期 通期業績

[単位:百万円]	2013/3 実績	2014/3 実績	対前期比		前回予想 2/13時点	対予想比	
			増減額	%		増減額	%
売上高	118,973	131,036	12,063	10.1	121,000	10,036	8.3
売上総利益	36,295	39,576	3,282	9.0	—	—	—
売上総利益率	30.5%	30.2%	—	—	—	—	—
販売管理費	30,009	34,171	4,162	13.9	—	—	—
営業利益	6,285	5,404	△ 881	△14.0	5,000	404	8.1
経常利益	7,475	5,940	△1,536	△20.5	5,000	940	18.8
特別損益	△141	△1,142	△1,001	—	—	—	—
当期純利益	4,673	3,025	△1,647	△35.3	3,000	25	0.8

※為替レート USD: 80円 98円  
EUR: 103円 130円

# 2014年3月期 通期業績

[単位:百万円]	2013/3 実績	2014/3 実績	対前期比	
			増減額	%
売上高	118,973	131,036	12,063	10.1
売上総利益	36,295	39,576	3,282	9.0
売上総利益率	30.5%	30.2%	—	—
営業利益	6,285	5,404	△ 881	△14.0
経常利益	7,475	5,940	△1,536	△20.5
特別利益	643	2,196	1,553	
特別損失	784	3,338	2,554	
当期純利益	4,673	3,025	△1,647	△35.3

※為替レート USD: 80円  
EUR: 103円 98円  
130円

## 概況

- 売上高は海外の増収に加え、為替の影響(約110億円)が大きく増収。
- 海外売上高比率は46%に増加。
- 営業利益  
【国内減益】火災事故による稼働率低下と補完工場の償却負担。  
【海外増益】各地の増収効果と原料費の低減等により増益。
- 特別損益  
保険収入(特別利益)22億円  
火災事故損失17億円及び固定資産圧縮損(特別損失)13億円の計上。
- 当期純利益で35%の減益。

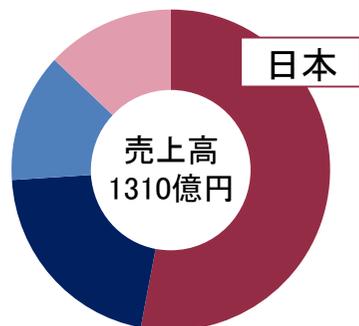
# 地域別売上高 ～日本、米州、欧州、アジア～



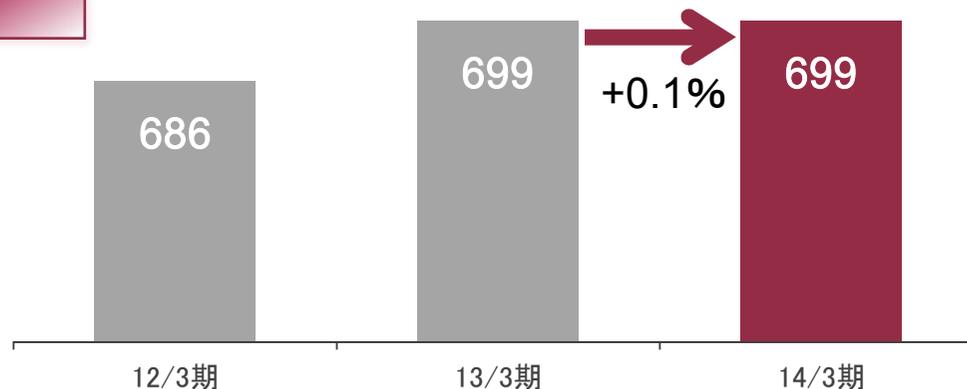
# 2014年3月期 通期業績

## ～地域別売上高～

### ①地域別売上高 日本



- 日本 699億円 53%
- 米州 267億円 21%
- 欧州 171億円 13%
- アジア 170億円 13%



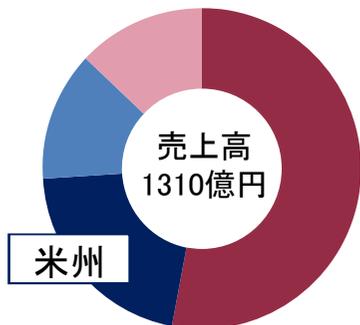
### 当社の状況

フレーバー	炭酸・スポーツドリンク、猛暑効果で氷菓などが伸長したが、火災事故対応の時期に新商品開発に関与できなかった事が、後半の売上減少の要因となった。	➡
フレグランス	高残香性を求める柔軟剤、液体洗剤等の新製品やリニューアル品が牽引。(調合香料は2010年度以降順調に推移)	↑
アロマケミカル	当社主力製品メントールへの需要増加。輸出は円安効果もあり順調。	↑
ファインケミカル	医薬品のジェネリック化により主要既存中間体(抗生物質向け等)が販売縮小したが、一部新製品が売上に貢献。	➡

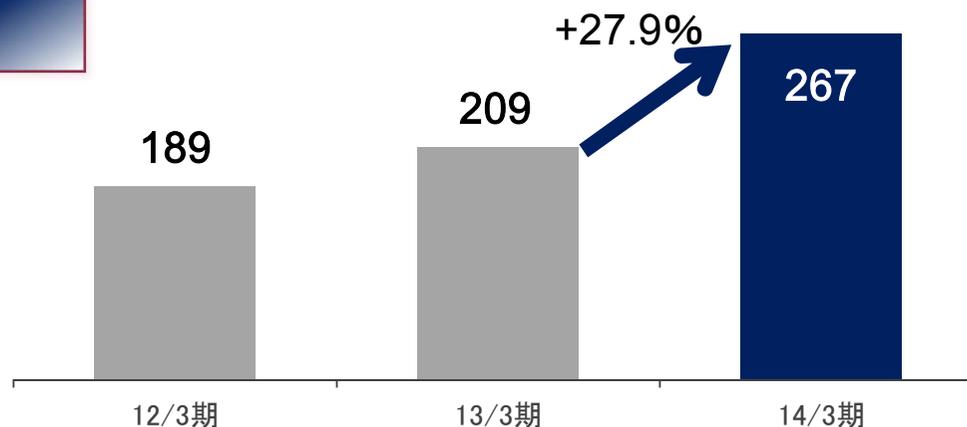
# 2014年3月期 通期業績

～地域別売上高～

## ②地域別売上高 米州



- 日本 699億円 53%
- 米州 267億円 21%
- 欧州 171億円 13%
- アジア 170億円 13%



## 当社の状況

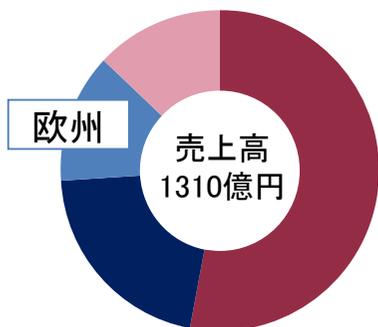
フレーバー	北米では、大手顧客からのミントビジネス拡大による売上の増大。 ブラジル拠点も二桁の伸長。	↑
フレグランス	南米や中米で増収の一方で北米はマルチナショナル企業向け販売が低調で、全体の売上げは横ばい。	→
ファインケミカル	医薬品のジェネリック化の影響を受け減収。	↓

※ 当社の状況については、現地通貨ベースによる比較

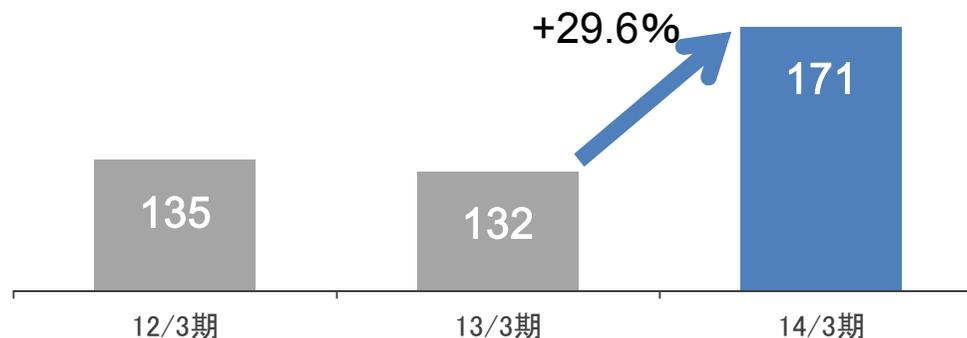
# 2014年3月期 通期業績

## ～地域別売上高～

### ③地域別売上高 欧州



■ 日本	699億円	53%
■ 米州	267億円	21%
■ 欧州	171億円	13%
■ アジア	170億円	13%



### 当社の状況

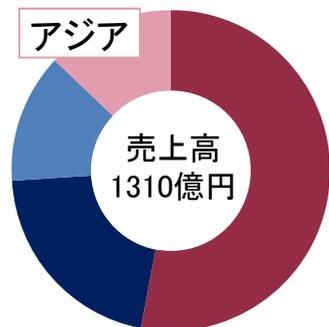
フレーバー	欧州全体での販売活動が奏功し、デイリーや製菓向け香料が好調に推移。	↑
フレグランス	ファインフレグランスは前期並みに留まる。 その他の分野は、大手顧客ごとの売上増減もあり、全体としては前年並み。	→
アロマケミカル	ユーロ高の影響で輸入商品との競争が激化しているが、香料市場全体の回復傾向もあり、増収。	↑

※ 当社の状況については、現地通貨ベースによる比較

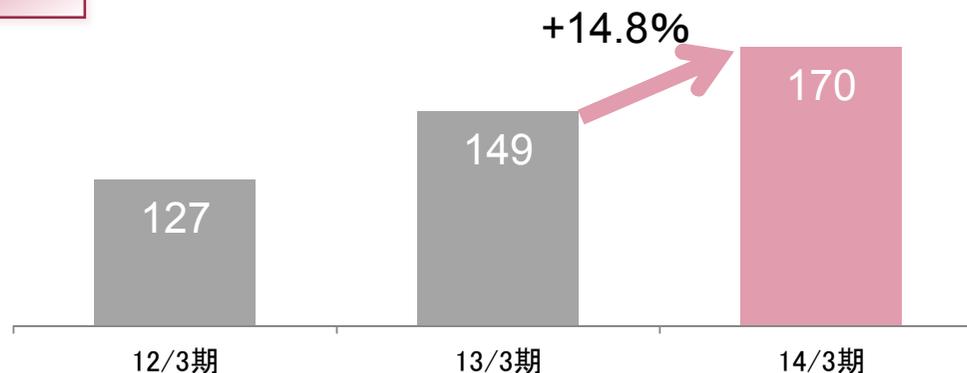
# 2014年3月期 通期業績

## ～地域別売上高～

### ④地域別売上高 アジア



- 日本 699億円 53%
- 米州 267億円 21%
- 欧州 171億円 13%
- アジア 170億円 13%



### 当社の状況

フレーバー	<p>連結対象から除外されたダンカフェ社(マレーシア)の売上(約20億円)のマイナスが減収要因であるが、その影響をカバーし、全体で増収。</p> <p>中国では大手顧客への製菓向け香料、及びオーラルケア分野でのローカル顧客への販売が順調。</p> <p>東南アジアは全体的に順調に推移し、増収。</p> <p>シンガポールはフレーバー新工場への移管が完了し、稼働開始。</p>	
フレグランス	<p>中国、東南アジアともに、主要顧客やマルチナショナル企業への日用品向け香料の売上が大幅増大。</p>	

※ 当社の状況については、現地通貨ベースによる比較



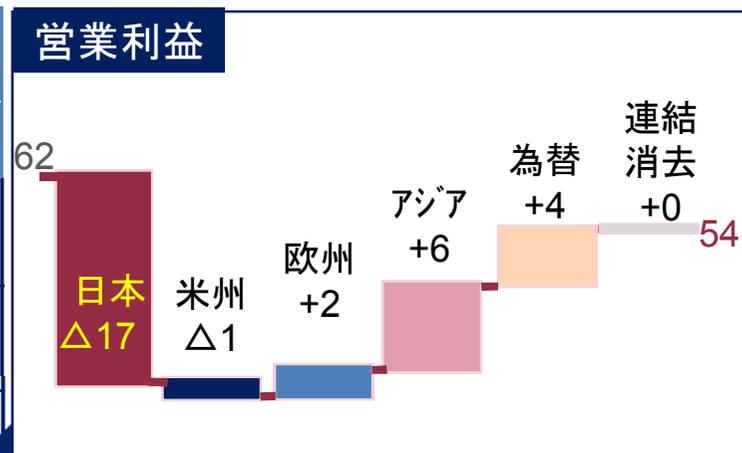
# 営業利益の状況



# 2014年3月期 通期業績

## ～営業利益～

[単位:百万円]	2013/3 実績	2014/3 実績	対前期比	
			増減額	%
売上高	118,973	131,036	12,063	10.1
売上総利益	36,295	39,576	3,282	9.0
売上総利益率	30.5%	30.2%	—	—
販売管理費	30,009	34,171	4,162	13.9
営業利益	6,285	5,404	△ 881	△14.0
経常利益	7,475	5,940	△1,536	△20.5
特別損益	△141	△1,142	△1,001	—
当期純利益	4,673	3,025	△1,647	△35.3



**【日本】**  
火災事故による稼働率低下とその補完工場の償却負担により大幅減益。

**【米州】**  
中南米で販売管理費増加

**【欧州】**  
原料費の低減やスペイン子会社の業績回復等で黒字回復。

**【アジア】**  
中国拠点、シンガポール拠点の販売好調に加え、原料費の低減で大幅増益。

※為替レート USD: 80円 / 98円  
EUR: 103円 / 130円

# 2014年3月期 通期業績

## ～特別損益～

[単位:百万円]

	2013/3 実績	2014/3 実績	対前期比	
			増減額	%
売上高	118,973	131,036	12,063	10.1
売上総利益	36,295	39,576	3,282	9.0
売上総利益率	30.5%	30.2%	—	—
販売管理費	30,009	34,171	4,162	13.9
営業利益	6,285	5,404	△ 881	△14.0
経常利益	7,475	5,940	△1,536	△20.5
特別利益	643	2,196	1,553	
特別損失	784	3,338	2,554	—
当期純利益	4,673	3,025	△1,647	△35.3

### 特別損益

#### ◆ 平塚火災事故による影響額

受取保険金(特別利益) 22億円

#### 火災事故による損失額

固定資産等の廃棄 8億円

在庫廃棄 2億円

その他対応費 7億円

(小計) 17億円

固定資産圧縮損 13億円

※為替レート USD: 80円  
EUR: 103円 98円  
130円



## Ⅲ. 2015年3月期 通期業績予想

# 2015年3月期 通期業績予想

[単位:百万円]	2014/3 実績	2015/3 予想	対前期比	
			増減額	%
売上高	131,036	129,000	△2,036	△1.6
売上総利益	39,576	—	—	—
販売管理費	34,171	—	—	—
営業利益	5,404	3,000	△2,404	△44.5
経常利益	5,940	3,000	△2,940	△49.5
当期純利益	3,025	3,500	475	15.7

※為替レート USD: 98円 100円  
EUR: 130円 130円

## 売上予想

【日本】約50億円以上の減収予想。  
フレーバー事業が10%近い減収。  
ファインケミカル事業も大幅減収予想。  
【海外】  
アジア地域は東南アジア、中国で  
フレーバー中心に20%前後の増収。

## 営業利益予想

国内減収による影響(約20億以上)  
アジア地域でも将来投資の販管費の  
増加を見込む。

## 純利益

東南アジアでの旧工場・研究所の売  
却益等を見込むため純利益で増益と  
予想。

# 2015年3月期 連結キャッシュフロー予想

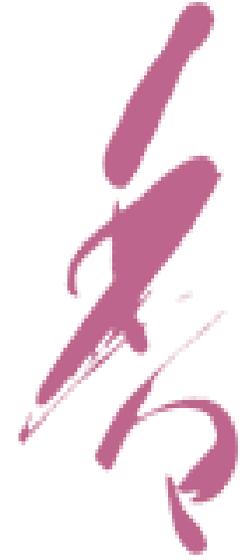
[単位:百万円]

	2014/3 実績	2015/3 計画
営業CF	7,537	6,500
(減価償却費)	(4,770)	(5,500)
投資CF	△11,544	△16,000
財務CF	5,077	9,500
現預金増減額	2,296	-
現預金期首残高	13,336	15,632
現預金期末残高	15,632	15,600

## 投資CF

2015計画 (約160億円)

- ・海外60億円以上  
(欧州約40億円、米州約20億円)
- ・西日本工場の当期における投資額は、概算。



## IV. 安定供給体制の確立

1. 安全管理体制の確立
2. BCPの再構築

# 1. 安全管理体制の確立

## 安全統括本部

安全統括本部長 → 社長

## 目的

高砂グループ全体を対象に、起こりうる事故災害を未然に防ぐために、安全文化を確立する。

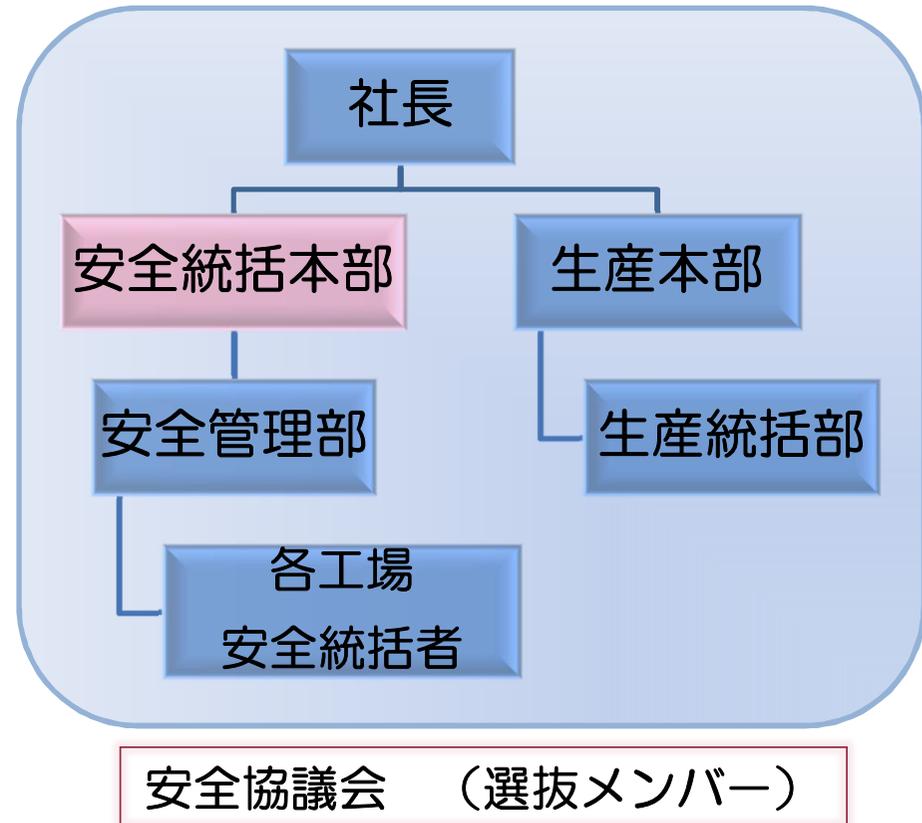
グループ内の意思疎通、人材の教育・訓練及び設備上の安全対策を強化することにより、発生した事故災害に対しても、迅速・適切に対応できる体制を構築し、予防対策構築とともに、これらを推進・管理する。

## 安全監査の実施

- ・外部の専門家と共に各工場を訪問。
- ・設備、手順、教育など全面的に見直しを実施。

## 安全協議会の実施

情報共有の場だけでなく、安全に関する各事案の決定機関。



# 1. 安全管理体制の確立

## 安全監査

- ◆ 関連会社を含めて、7事業所を対象
- ◆ 外部の専門知識の導入

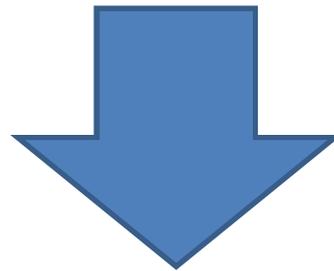
事業所名	訪問日数
平塚工場	14
鹿島工場	9
磐田工場	6
研究開発本部	3
(株)高砂ケミカル	4
高砂フードプロダクツ(株)	5
高砂スパイス(株)	6
合計	47

\* 期間 : 2013年12月～2014年5月の集計

# 1. 安全管理体制の確立

---

安全監査・安全協議会を中心とした  
安全統括本部の安全活動



安全意識の向上  
品質の向上  
生産効率の向上

## 2. BCPの再構築

◆ 東日本大震災での被災経験



◆ 昨年の火災事故対応の経験



◆ コンサルタンの協力を得て、国内に複数の製造拠点を持つ利点を生かしたプランを策定



## 2. BCPの再構築

### 高砂香料西日本工場 株式会社(広島県三原市)



広島県三原市の土地取得済  
2015年前半完成予定

生産能力 約3千トン(操業開始時予定)

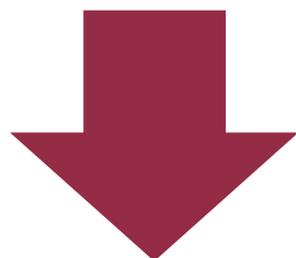


西日本に製造拠点を設けることにより、  
品目の振り分けを行う。  
同時に、グループ全体の生産体制の  
効率化も進める。



# 安定供給体制の確立

西日本に製造拠点を設けることにより、  
品目の振り分けを行う。  
同時に、グループ全体の生産体制の  
効率化を進める。



確固たる  
安定供給体制の確立





## V. 海外戦略について



# 海外拠点(世界27の国と地域)



# 東南アジア マーケット動向と戦略

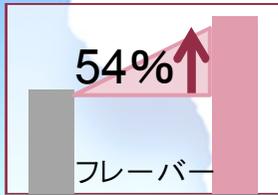
## 増大する東南アジアの需要に対応

Shanghai Takasago-  
Union Fragrances &  
Flavors Co., Ltd.

Takasago International  
(Guangzhou) Co., Ltd.

Xiamen Hua Ri Foods  
Industrial Co., Ltd.

### China



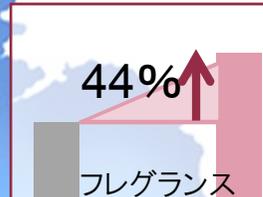
2012 → 2017  
市場規模予測

市場規模予測は、2012年時点と2017年時点での市場規模予測に基づく伸び率です。

市場規模予測 【参考】 IAL Consultants  
「An Overview of the Global Flavours &  
Fragrances Market 8th Edition」 2013.4



### Asia-Pasific



2012 → 2017  
市場規模予測

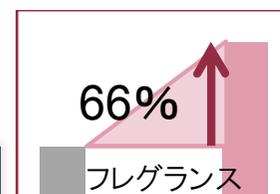
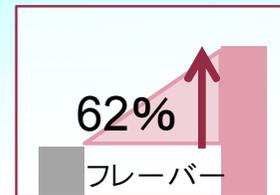


Takasago International  
(Singapore) Pte. Ltd.

### シンガポール 新施設建設

2014年3月本部・研究・工場を集約  
化した施設が完成し、移転完了  
工場～稼働開始

### India



2012 → 2017  
市場規模予測



Takasago International  
(India) Pvt. Ltd.

### インド 新工場 2015年稼働予定

当初生産能力 約2000T/年  
土地取得済み

## 生産能力向上、研究開発 機能充実

東南アジアにおけるハブ拠  
点として、シンガポールの生  
産・開発能力などを強化。  
インドにおいても、新工場建  
設(現在仮工場にて稼働中)

# 欧州 フレーバーマーケット動向と戦略

## 欧州の食品ビジネスに攻勢

EMEA



2012 → 2017  
市場規模予測



Takasago Europe G.m.b.H.

ドイツ 本部・工場拡張改修

2015年工事完了予定  
食品向け生産能力増強

## 拠点機能の拡充

欧州における好調なフレーバ  
ービジネスをより強かに推し進  
める為の生産能力と人員の増  
強。  
研究開発機能の充実。

Takasago Morocco  
(Societe Cananga S.A.R.L.)

モロッコ 2012年12月設立

バニラエキスを加工し、各拠点へ  
生産能力; 約150 MT/年

Takasago Madagascar S.A

マダガスカル 2013年1月設立

バニラの原料収集、エキスの加工  
生産能力; 約300MT/年

# 米州 マーケット動向と戦略

## 米州のビジネスを強化



Takasago  
International Corp.  
(U.S.A.)

### アメリカ FR新工場(Harriman) 建設

敷地面積 : 80,950㎡

生産能力 : 15,000T/年

2014年6月より旧工場の移転完了予定 →  
製造開始

### Americas



2012 → 2017  
市場規模予測

### 生産能力向上

生産能力の向上・供給体制の効率化により、フレグランスビジネスを強化。ブラジル・メキシコにおいては、フレーバーも含めた生産能力の強化。

Takasago De Mexico  
S.A. De C.V.

メキシコ 2014年拡張工事

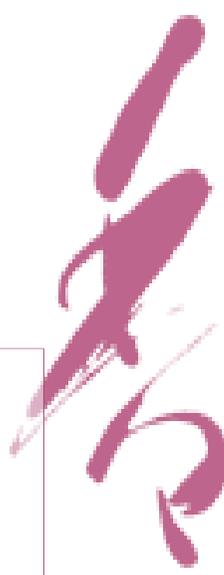
工場・研究所の増改築

Takasago Fragrâncias  
E Aromas Ltda

ブラジル 2011年新工場取得

将来生産能力 8000T/年

本日は、ありがとうございました。



※注意事項

本資料は、2014年5月19日現在の当社グループの事業内容、経営戦略、業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。

本資料に記載した意見や予測等は資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し又は約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。

問合せ先: 取締役管理本部長 笠松 弘典

TEL: 03-5744-0523 FAX: 03-5744-0512

<http://www.takasago.com>

E-mail: [ir@takasago.com](mailto:ir@takasago.com)